できる夏の省エネ！ １日１エコを実施しよう

地球温暖化を防止するために「京都議定書」が平成17年に発効し、日本は二酸化炭素（ＣＯ２）を始めとした温室効果ガス排出量の６％削減を国際的に約束しました。今年４月には、第１約束期間がスタートし、温室効果ガスの削減目標を確実に達成することが求められています。

現在はもちろん、この先ずっと私たちに命の恵みを与える自然環境。今、一人ひとりが身近なエコ活動に取り組むことが望まれています。

■地球温暖化とは？

大気中にはＣＯ２などの温室効果ガスが含まれていて、これが温暖化の原因とされています。温暖化が進むと、①異常気象の発生②自然環境の崩壊③病気の多発④農作物への被害などが起こるとされています。

１日１エコ

身近でできることはこんなこと！

①冷房の温度は28℃、暖房時の室温は20℃にする（約33kgのＣＯ２削減、約１８００円の節約）

窓の日差しは、カーテンで調整。クールビズでさらに効果アップ。

②エコドライブをする（約39kgのＣＯ２削減、約１９００円の節約）

停車中は、エンジンをオフ。習慣づけが大切です。

③買い物バックを使う

スーパーでの買い物にはバックをひとつ用意。

「レジ袋いりません」の一言がごみを減らします。

※節約効果は、１世帯あたりの効果。節約金額は、１年間の効果を表示しています。

28℃

冷房は28℃に設定しよう

チーム・マイナス6％

■みんなも参加しよう！「チーム・マイナス６％」

このプロジェクトは、「一人ひとりの小さな行いがチームとして集結すれば、地球規模の大きな力になる」こんな思いの込められた国民的プロジェクトです。個人・団体の誰でも参加できますので、詳しくは、ホームページ（http://www.team-6.jp/）まで。

南あわじ市役所も、「チーム・マイナス６％」の一員として、夏場（６～９月）のエアコンを28℃を目安に設定。あわせて、ノーネクタイ・軽装のクールビズで業務を行っています。

■家庭からの温室効果ガスは３割増加

日本は、世界で４番目に多くの温室効果ガスを排出しています。特に家庭から直接排出されるＣＯ２の排出量は、約15年間で30％以上も増加し、平成18年には全体の13％を占めています。（下グラフ）

まずは身近な家庭から「１日１エコ」に取り組み、環境に優しい生活を送ってみませんか。

市では、家庭ごみの処理から出るＣＯ２削減のために廃食油の回収、生ごみ処理機の購入補助などを行っています。

※写真（左）とグラフ（下）は、全国地球温暖化防止活動推進センターＷＥＢページより。

▲崩落する氷河。温暖化により滑り落ちる氷河の速度が速くなった

廃食油（てんぷら油）の回収

■回収日時　毎月第１火曜日午前９時～正午

■回収場所　市役所の各 庁舎と連絡所など

※沼島出張所と灘連絡所は偶数月のみ回収

■回収方法　専用のポリタンクに、ろうとでろ過して入れます。

補助金情報

１世帯１基まで、生ごみを処理する道具の購入金額の50％まで補助金が支給されます。

（買い替えの場合、前の機器が法定耐用年数を超えている必要あり）

・生ごみ堆肥化容器

１基 4,000 円を上限とします。

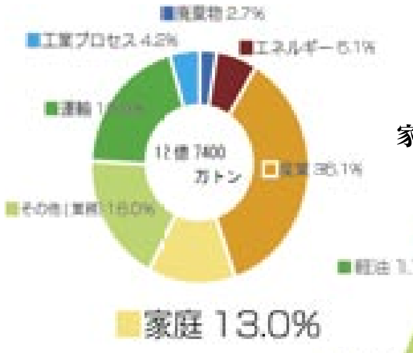
・生ごみ処理機

１基 30,000 円を上限とします。

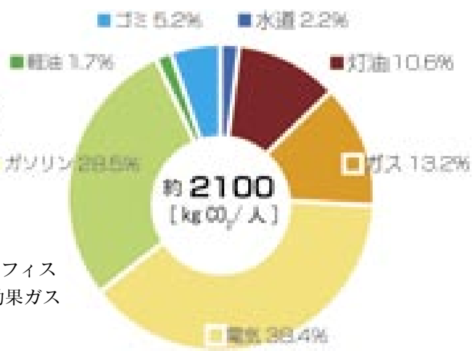
問生活環境課☎ 43-5024

平成 18 年状況

日本の分野別ＣＯ２排出量の割合



家庭からの CO_2 排出量の割合 －１人あたりの内訳－



（出典）温室効果ガスインベントリオフィス「日本の 1990 ～ 2006 年度の温室効果ガス排出量データ」（2008.5.16 発表）

１日１エコ

うちエコ。家でできること！

④待機電力を減らす（約60kgのＣＯ２削減、約３４００円の節約）

待機電力カットでエコ活動。まずは使用頻度の低いものからお試しを。

⑤シャンプー中のシャワーは止める（約60kgのＣＯ２削減、約７１００円の節約）

１分間シャワーの出しっ放しは10リットル。こまめに止めることが節約につながります。

⑥エコ商品を購入する

家電を買う際は、省エネ性能に注目。

取り組むとなると、「面倒だ！」とつい考えてしまいますが、こんなちょっとしたことがエコ活動につながります。